

北東アジア地域環境体験プログラム

东北亚地区环境体验活动

Зүүн хойт Азийн байгаль орчины дадлага хөтөлбөр

동북아시아지역 환경체험 프로그램

Симпозиум для школьников региона СВА

по приобретению экологического опыта



テーマ：「水源保護・汚染対策」

2010年8月4日（水）～5日（木）

中華人民共和国遼寧省大連市

主催：日本国富山県生活環境文化部、中華人民共和国遼寧省環境保護庁

北東アジア地域環境体験プログラム

8月3日(火)

- 海外参加者入国
国内外参加者の会場(大連医科大学)への移動
会議受付
- 16:00~17:00 各自治体や学校の引率者会議(場所:大学図書館2F会議室)
一般説明、会議資料と活動用品の配布、活動の実施や安全保障など
についての協議
- 17:00~17:30 会議ボランティアや大学職員の案内によるキャンパスや活動コースの見学
18:00~ 歓迎会
翌日の準備、就寝

8月4日(水)

- 朝食(場所:大学食堂)
- 8:30~ 北東アジア地域環境体験プログラム開催
- 8:30~ 9:10 開会挨拶(場所:大学図書館1Fホール)
- 中華人民共和国遼寧省大連市
- 中華人民共和国遼寧省環境保護庁 王 秉傑 (Bingjie WANG) 庁長
- 中華人民共和国遼寧省教育庁 劉 玉華 (Yuhua LIU) 副庁長
- 日本国富山県生活環境文化部 堀 武司 (Takeshi HORI) 次長
- 9:10~ 9:20 参加者による署名
- 9:20~ 9:40 記念撮影
- 9:40~12:00 活動発表(場所:大学図書館1Fホール)
・一滴の水の大切さ-節水活動(遼寧省) 【10】
・環境調査、イベント出展(富山県) 【12】
・青い金(中央県) 【13】
・環境保護小衛兵による母親河(母なる大河)の保護活動(黒龍江省) 【14】
・鏡浦湖の生態調査活動と環境キャンペーン活動(江原道) 【15】
・人間活動が小川に与える影響(ベラヤ川の例を挙げて)(沿海地方) 【17】
・“緑の小さな森”エコクラブの活動(ウブルハンガイ県) 【19】
- 昼食(場所:大学食堂)
- 14:00~16:00 講義:「海洋環境の汚染とその防止と処理」(場所:大学図書館1Fホール)
- 包 娜仁 (Naren BA0) (大連環境監測センター 高級工程師 総合室主任)
- 16:00~17:00 学生によるゲーム
夕食(場所:大学食堂)
- 19:00~21:00 参加証明書の授与、記念品の贈呈
翌日の環境体験活動の準備(各部屋毎に漂流瓶の作成、環境保護百メートル
巻物に記載する内容についての議論)(場所:大学図書館2Fホール)
- 翌日の準備、就寝

8月5日(木)

- 朝食(場所:大学食堂)
- 8:00~ 旅順老鉄山へ移動(バス)
- 環境体験活動(場所:旅順老鉄山自然保護区 黄海と渤海の境界線)
- 環境宣言文の発表
 - 各国の学生が母国語で書いた環境宣言文を漂流瓶に入れて海に放流
 - 各国の学生による環境保護百メートル巻物の制作
- 大学へ移動(バス)
- 昼食(場所:大学食堂)
- 13:00~14:00 大連自然博物館へ移動(バス)
- 14:00~16:00 大連自然博物館の視察
- 16:00~17:00 環境体験活動(場所:星海広場)
- 市民と観光客に環境保護巻物を見せ、エコ・低炭素ライフを啓発
- 17:00~18:00 大学へ移動(バス)
- 夕食(場所:大学食堂)
- 19:00~21:30 交流会
- 帰国の準備、就寝

8月6日(金)

- 朝食(場所:大学食堂)
- 大連医科大学退所(参加自治体別に大連空港、大連駅等へ移動、解散)

<発表以外の活動資料>

アムール川及びアムール支流の水化学成分の特徴(ハバロフスク地方)

【21】

※【 】内の数字は、資料のページ番号を示します。

一滴の水の大切さ－節水活動

- 1 自治体名： 遼寧省
- 2 発表者名： 劉 昕玥 (Xinyue LIU)
(大連市旅順六十中学校 2 年生)
- 3 活動名： 一滴の水の大切さ－節水活動
- 4 活動期間： 2009 年 9 月～2010 年 3 月
- 5 活動場所： 旅順六十中学校、旅順口区環境保護局弁公室
- 6 活動人数： 50 人 (12 のグループに分けて活動)
- 7 活動をはじめた経緯：

私たちは、大連市、旅順口区、六十中学校エリアにおける水不足の現状について、インターネットで調べたり、旅順口区環境保護局の職員のお話を聞いたりして、取りまとめた。また、取りまとめた結果に基づき、学校エリアを調査対象に選定し、主に学生生活用蛇口について、節水状況を調べた。さらに、調査データを取りまとめ、調査結果を分析し、合理的な節水措置を提案して、学校側及び環境宣伝教育センターの協力を得て節水措置を宣伝した。

8 発表要旨：

- ①環境体験学習プログラムについての計画と運営
- ②節水状況についての調査と体験活動
- ③節水措置の提案と宣伝 (学校側及び環境宣伝教育センターの協力を得て)

活動の様子 (2009 年 9 月～2010 年 3 月) 及び成果

		
節水宣伝活動	活動メンバーによる講演	大連の水資源についての調査

		
節約した水で花を育てる	調査活動の様子	調査活動の様子



調査結果の取りまとめ



活動メンバーによる宣伝



節水活動への参加

環境調査、イベント出展

- 1 自治体名： 富山県
- 2 発表者名： 板川 努 (Tutomu ITAGAWA)
(富山県立魚津工業高等学校 環境科学部)
- 3 活動名： i 大気汚染調査
ii 河川水質調査
iii 廃油リサイクル石けんづくり
- 4 活動期間： 通年
- 5 活動場所： i 富山県各地の道路沿い
ii 魚津市内の3河川
iii 県内各種環境イベント
- 6 活動人数： 15名程度
- 7 活動をはじめた経緯：
環境科学部の活動の一環としてはじめた。

8 発表要旨：

環境科学部は、主に3つの活動を行っている。今回の発表では、それらの紹介を行う。

- i ザルツマン試薬を用いた、大気中の窒素酸化物濃度の測定を毎週1回行っている。
部員がそれぞれの帰路、地域の要所に、窒素酸化物を吸着する薬品をしみこませたろ紙を入れたフィルムケースを設置し、一昼夜後回収してザルツマン試薬で発色させ、吸光光度計で計測し、窒素酸化物濃度を出すものである。
- ii 水質チェッカー・パックテストを用いた、水中の物質の測定を行っている。
本校のある魚津市内の3河川、片貝川・鴨川・角川へ順番に従って水質調査に向かい、水中のリンやアンモニウム、pHなど、各種項目を計測している。
- iii 「アースデイとやま」「魚津市環境フェスティバル」「とやま環境フェア」など、県内の環境イベントに出展し、『ペットボトルを利用した廃油リサイクル石けんづくり』の体験ブースを設置し、来訪者にその場で廃油石けんを作ってもらった。(写真)



青い金

- 1 自治体名： 中央県
- 2 発表者名： ゴルジガル・バヤルサイハン (Zoljargal BAYARSAIKHAN)
(中央県ズンモドゥ市フムウン総合学校 10 年生)
- 3 活動名： 水資源管理の学習
- 4 活動期間： 2010 年 1 月～6 月
- 5 活動場所： ウランバートル市トゥウル川
- 6 活動人数： 3 人
- 7 活動をはじめた経緯：

近い将来、モンゴルのきれいな水が不足するおそれがあるため、モンゴルの地理の教科書の内容を学習するとともに、2007 年ウランバートル市で開催された「水資源管理の強化」会議で発表された論文を学習しました。

8 発表要旨：

コップ一杯の水の価値が金（ゴールド）より高いと聞いたら、あなたは信じますか？

もちろん、あなたは驚くでしょう。コップ一杯の水の価値が金より高いだなんて！しかし、地球に生息しているすべての生物は、その青い金（水）があるからこそ、生きていくことができます。食べ物なしでも、人間は何日間か生きることができます。しかし、水がなければ5日間も生きられないでしょう。そう考えると、水は宝物であることが分かります。しかし、すべての人々が、水の節約の大切さを分かっているでしょうか。

楽な生活を覚えた現代人は、歯磨きだけのために数リットルの水を使っています。しかし、歯磨きだけなら、コップ一杯の水で十分でしょう。このような軽率な行為により、現代人は命の源である水を次世代から奪っています。

モンゴルの水資源は豊富ではありません。水資源量は 40.4 km³ です。使用する水の 8 割は地下水から供給されます。その他は、地表水から供給されます。統計によると、すでに 0.5～0.7 km³ の水が使われました。

使用した水の量は、少ないと思われるかもしれませんが、しかし、水の無駄遣いがこのまま続くと、2020 年にはきれいな水が不足するおそれがあると科学者たちは警告しています。

水の利用者は、パオ（包）（遊牧民のテント）に住んでいる者、アパートに住んでいる者、企業という三つのグループに分けられます。この中で、最も多くの水を使用しているのはアパートに住んでいる者で、全国使用量の 73% も使用しています。一方、パオに住んでいる者は全国使用量の 2% しか使用していません。

2004 年、モンゴル政府は水に関する法律を改正し、使用する水の量に応じて、水道料金が徴収されるようになりました。この結果、水の無駄遣いが少なくなりました。

近頃、地表水の量が減少しています。それには、二つの理由が考えられます。地球温暖化の影響と水資源確保の役割を果たす森林の減少です。

1990 年から、金採掘や天然資源開発という新しい分野で、さらに水が必要になりました。水の使用量が増えたため、川は浅くなり、水資源は減少しています。

モンゴルでは、使用する水の8割は地下水から供給されます。しかし、地下水は、人間活動によって大変影響を受けやすいものです。地下水を復元させるには、数百年かかります。このようなことから、水使用量を削減しなければなりません。

環境に優しく安全な世界に住むため、地球に住む全ての人々は、水資源を守るために全力を尽くすべきです。

環境保護 しょうえいへい 小衛兵による母親河（母なる大河）の保護活動

- 1 自治体名： 黒龍江省
- 2 発表者名： 張 佑寧 (Youning ZHANG)
(ハルビン市第四十七中学校 2年 7組)
- 3 活動名： 環境保護小衛兵による母親河の保護活動
- 4 活動期間： 2010年4月下旬～5月末
- 5 活動場所： ハルビン市内の12のグリーン学校
- 6 活動人数： 6,000人
- 7 活動をはじめた経緯及び発表要旨：
 - 第1段階： ハルビン市内における12のグリーン学校において、6,000冊の「環境保護小衛兵の願い事」を配布し、3つのテーマに関する活動を学生たちに伝えた。
 - 第2段階： 大型の環境保護に関するイベントを主催し、イベントで受賞した作品の表彰式を行った。また、いくつかのインタラクティブ (interactive) 活動を企画した。
 - 第3段階： 「環境教育授業がキャンパスに入る」という活動を展開し、市内の12のグリーン学校において、「母親河を大切にする」をテーマに、特別講座を開いた。

鏡浦湖の生態調査活動と環境キャンペーン活動

- 1 自治体名： 江原道
- 2 発表者名： 曹 永光 (Young-Kwang CHO)
(江原道江陵文成高等学校 サークル「タサリ」)
- 3 活動名： 鏡浦湖 (Kyeongpoho) の生態調査活動と環境キャンペーン活動
- 4 活動期間： 2006年3月～2010年6月
- 5 活動場所： 鏡浦湖、香湖 (Hyangho)、安仁 (Anin) 海岸砂丘、江陵市庁青少年修練館
など江陵市全域
- 6 活動人数： 40人～50人
- 7 活動をはじめた経緯：

鏡浦湖は約 3,000年前にできた潟湖(Bar built lagoon)である。海水と淡水が混じっている汽水湖として独特の生態系を有し、歴史的、文化的に保存価値が高い場所である。また、渡り鳥の餌場であり、移動のための中継地として、環境保全の観点からも重要な機能を果たしている。そのため、青少年の力ではあるが、In Our Hands!—環境保全は我々の力で!—というスローガンを掲げて、鏡浦湖を守るために人間と環境が共生していこうという意味を持つサークル「タサリ」に加入し、活動をはじめることになった。

8 発表要旨：

江陵文成高校 サークル「タサリ」の紹介

* 設立時期：1995年江陵文成高校「環境監視チーム」として活動を始め、2000年から環境と人間が共生していこうという意味を持つ「タサリ」に名称変更後、積極的な環境保全活動。

* 活動人数

- 2000年～2009年：1年生 約15人、2年生 約20人、3年生 約15人で平均45～50人
- 2010年現在：1年生 23人、2年生 14人、3年生 13人 — 合計50人

* 活動内容

- 環境体験学習プログラムの運営
- 低炭素・グリーン成長 (Low Carbon Green Growth) のための様々な教育資料の作成と普及
- 環境キャンペーン活動の展開：青少年による湿地造成ナショナルトラスト (National trust) 運動の展開

<別紙> 活動紹介

1. 2006年活動内容と成果紹介

		
鏡浦湖の浄化活動	「環境の日」に受賞	鏡浦湖の生態調査活動

2. 2007年活動内容と成果紹介

		
鏡浦川の生態調査活動	鏡浦湖の浄化活動	泰安半島の油除去活動

3. 2008年活動内容と成果紹介

		
鏡浦川への鮭の放流活動	鏡浦湖の浄化活動	環境キャンペーン活動

4. 2009年活動内容と成果紹介

		
生態調査活動の ドキュメンタリー制作	環境キャンペーン活動	環境キャンペーン活動

5. 2010年活動内容と成果紹介

		
環境報告展の開催	環境キャンペーン活動	鏡浦川の浄化活動

人間活動が小川に与える影響 (ベラヤ川の例を挙げて)

- 1 自治体名： 沿海地方
- 2 発表者名： ガルワリンスカヤ・オリガ (Olga GARVALINSKAYA)
(ダリネレチェンスク市第2総合学校 11年生)
- 3 活動名： 人間活動が小川に与える影響についての文献調査、感覚器官による水質検査、物理化学的及び微生物学的分析による水質検査、ベラヤ川の変化及びリクリエーションの場としての利用についての世論調査
- 4 活動期間： 2009年4月～6月
- 5 活動場所： 沿海地方の北西に位置するダリネレチェンスク市を流れるベラヤ川
- 6 活動人数： 生徒1人、教師3人
- 7 活動をはじめた経緯：

人間活動により汚染した川は、市の景観を悪くし、雨の日には川の近くの地域を水浸しにし、さらには様々な病気の原因にもなり得る。しかし、川は、市民のリクリエーションの場として利用することができる。こうしたことから、ベラヤ川に関する調査等をはじめた。

8 発表要旨：

ダリネレチェンスク市は沿海地方の北西に位置し、ボリシャヤ・ウッスルカ川の左岸に、ウスリー川の河口から5キロ離れたところにある。ダリネレチェンスク市は、他の沿海地方の都市と同じく、温帯モンスーン気候に属しているが、日本海から離れているため、大陸性気候となっている。

年平均気温は -1.5°C 、無霜期間は137日である。年降水量は600mmで、その大半は夏後半に降る。

ボリシャヤ・ウッスルカ川沿いでは、斜面の傾斜が緩く、湿度が高いため、川沿いの低地は沼沢化し、多数の湖ができています。

ボリシャヤ・ウッスルカ川の左支流であるベラヤ川が、ダリネレチェンスク市内を流れている。ベラヤ川は、市の南東地方の沼を水源としている。川の長さは2.3km、幅は2～5mである。川は、もろい堆積土からできた地域を流れている。川岸の高さは低い。

川には、主に雨水が流れているが、雪解け水や地下水が流れていることもある。川の流速は $0.002\sim 0.5\text{m/s}$ である。川の水温は 2°C から $23\sim 25^{\circ}\text{C}$ まで変化し、岸付近では、さらに温度の高い所もある。冬期、川の大部分は底まで凍っている。

川に生息している動物の種類は少ない。主に生息しているのはボウフラ、花虻、バクテリア、繊毛虫である。

沿海地方では、洪水は珍しいことではない。1901年から、ダリネレチェンスク市の洪水に関する情報が新聞に掲載されるようになった。1967年8月に大きな洪水が起こった。ベラヤ川の水位が数メートルにまで上がり、市の中心部の大部分は水浸しになった。市民は、多くの通りをボートで移動していた。

洪水被害の後片付けが終了した後、ボリシャヤ・ウッスルカ川からベラヤ川に水が逆流

するのを防ぐため、水門の建設が決定された。市内に、ダムや水位調節水門が建設され、市の中心部まで水が近付かないように川岸の高さが上げられた。その結果、ダリネレチェンスク市は洪水による被害から守られた。

十分な水の量が届かなくなったベラヤ川は、浅くなり、市民は川に関心を持たなくなった。それでも夏の大雨の時期には、川は水で一杯になり、近くにある民家や畑等は冠水した。

長年、ベラヤ川沿いに居住する企業や住民は、あらゆる廃棄物を川に捨てていた。80年代、企業、学校、団体による、ベラヤ川岸のクリーン作戦が行われていたが、それ以降、取組みは行われなくなった。

現在、川に隣接する地域の企業の活動は、ダリネレチェンスク市の環境保全団体によって監視されている。しかし、調査の結果から、川岸は家庭ごみで覆われていることが分かった。

川の水はひどく汚染され、水質の衛生基準を満たしていなかった。また、物理化学的、微生物学的数値は、化学物質の最大許容濃度を超えていた。

調査の結果として、以下の結論と提案が出された。

大雨の際、民家が冠水しないために、以下の対策を行うことが必要である。

1. 川を掃除し、機械で川底を2 m深くする。
2. 固形廃棄物や家庭ごみを除去する。
3. ベラヤ川の問題にマスコミの関心を集める
4. 川岸に植樹をし、川岸を補強する。
5. 民家の冠水を防ぐために、土手を0.5～1 m高くし、水位調節設備で川の水位を調節する。
6. ノワヤ通りにあるガレージ周辺の地点とタヴリチェスカヤ通りの線路周辺の地点を幅610mのダムでつなぐ。

このほか、リクリエーションの場所を設ける必要がある。そのために、銭湯周辺を整備し、市立公園とともに、銭湯周辺を市民の憩いの場として利用する。建築中のホテルから川に通じる階段を作り、川岸にはベンチや照明を設置する。川の深さが十分であれば、ボートやカタマラン（双胴船）の置き場も設置することができる。これらの工事は、企業の負担で行うが、学生、市民団体の助けも借りて行う。夏期、ダリネレチェンスク市に来る観光客にボート遊びを提供でき、それが収入になる。

“緑の小さな森” エコクラブの活動

- 1 自治体名： ウブルハンガイ県
- 2 発表者名： ソドノムドルジ (Ts. SODNOMDORJ)
(アルバイヘル市第一学校)
- 3 活動名： “緑の小さな森” エコクラブの活動
- 4 活動期間： 通年
- 5 活動場所： アルバイヘル市
- 6 活動人数： 32 人
- 7 活動をはじめた経緯及び発表要旨

ウブルハンガイ県第一学校の“緑の小さな森”エコクラブは、2007年に16人の生徒によって設立された青少年の組織である。現在、参加生徒数は32人になり、1,300人のサポーターと2人の指導教師とともに、活動を行っている。

エコクラブの目標：

エコクラブは、友人やクラスメート、市民に、環境保全の重要性について知らせたり、学習させたりすることにより、彼らが自ら協力して、砂漠化を防ぐために木や花を植える、身近な場所にゴミを捨てずきれいに保つなどの活動を行うようになることを目標としている。

エコクラブの活動：

・エコクラブのメンバーである生徒たちは、県の環境観光部やエコクラブの指導教師とともに、2009年4月17日から5月20日までの間、“我々生徒の参加により緑のある環境をつくる”をテーマとした学習会を開いた。この学習会に参加した生徒たちは、環境保全の伝統的な考え方を理解し、木や花を植えることの重要性を理解させるための体験や学習を通して、友人やクラスメートに木や花を植える方法等を教えることができるようになるなど、他の人の模範となった。

・ウブルハンガイ県アルバイヘル市のゲル地区に住む約400人の市民を対象に、2009年7月2日から9月25日までの間、“我々市民が健全な環境をつくる”をテーマとした学習会を2段階で行った。この学習会では、公共トイレや排水ポンプの衛生、水の衛生などに関して、合計72時間の学習を行った。生活水準は低い、健全な環境で生活したいという気持ちがあり、我々の活動に積極的に参加している人の家庭のトイレや排水ポンプなどを、地元住民たちと協力して修理した。

・“千花の祭り”という総合活動を、2009年9月28日に学校において行った。祭りには、第一学校の合計40組2,400人の生徒、76人の先生、約1,300人の親たちが参加した。祭りには、合計2,538本の花が展示され、“一番綺麗な花”、“一番珍しい花”、“一番多様な花”を出展した生徒を選び、皆さんに報告した。

・“ゴミのないきれいな環境”という活動を行っている。この活動では、“捨てなければゴミではない”をテーマとした学習を行った。また、“不要なものからモノを作ろう”をテーマとして、リサイクル材料を利用して作った作品のコンテストや、“誰が一番良いデザインのごみ箱を作るか”というコンテストを行った。お金を使わずに、リサイクル紙でゴミを分別するゴミ箱を作ったことは経済的であった。また、①環境保全、②環境汚染された地域の汚染原因、③人間による環境破壊の防止対策 に関して、“子どもたちの参加”をテーマとした絵画コンクール、スピーチコンテスト、クイズ大会を常に行っている。

エコクラブのこれからの目標：

汚染された地域の環境を保全・復元させる活動に、より多くの同年代の子どもたちを参加させるために、政府や非政府組織と協力し、子どもの環境に対する意識、行動を変革させる学習や啓発活動を体系的に行うことや、我々の活動を他の地域に広げるため、他の地域にもエコクラブを作ることを目標としている。

このように、未来のことを考えながら、単なる地域レベルではなく、地域を超え、そして国レベルで活動を実施するよう努力している。

アムール川及びアムール支流の水化学成分の特徴

- 1 自治体名： ハバロフスク地方
- 2 発表者名： ソボレフスキー・アレクサンダ (Alexander SOBOLEVSKUY)
(ハバロフスク市立環境生物学センター)
- 3 活動名： アムール川及びアムール支流の水化学成分の調査への参加
- 4 活動期間： 2008年～2009年
- 5 活動場所： ハバロフスク市
- 6 活動人数： 2人
- 7 活動をはじめた経緯：
アムール川の汚染が心配になったため、活動をはじめた。

8 発表要旨：

狩猟と漁業を生活基盤としている、ハバロフスク地方の住人を含めた北方の先住民族は、年々、きれいな水が減少してきているのを痛感している。

アムール川から分流したカザケヴィチェヴォ支流が、ウスリー川と合流してアムール支流となるため、アムール川の水は、アムール支流の成分に影響を与えている。

ハバロフスク市ができて以来、給水はアムール支流から行われたため、その水質がとても重視された。1907年に初めての水道が引かれた。

アムール川中流での人口増加やダム、貯水池の建設等の経済改革は、アムール支流の水質にも影響を与え続けた。このため、アムール川中流での水質モニタリングや環境対策等が緊急の課題となっている。

20世紀末に行われた調査によると、アムール支流に微量のアンモニアと塩素イオンが含まれていた。また、水の年平均ミネラル含有量の変動が指摘され、多いときには、88.0mg/lまで上がった。

2008～2009年にロシア非常事態省認定の実験室で行われた分析によると、アムール支流の水質は、アンモニアイオン、フェノール、アルミニウム、鉄、マンガンの濃度が最大許容濃度を上回り、かなり悪化していた。

近年、水も飲めない、入浴もできないアムール川の水質が懸念されている。松花江の流域では、過去30～40年の間、経済活動が活発になったため、アムール川及びアムール支流の水質は急激に悪化した。その結果、アムール支流断面の溶質分布はかなり不均一となり、ミネラル含有量は、左岸側で多く、右岸側で少なくなる状態が見られるようになった。

このようななか、アムール川流域における生物多様性の保護は、国際的に重要なものとなっている。なぜなら、アムール川に生息している魚の種類は、ロシア最大の川のヴォルガ川より多いからである。(アムール川103種類、ヴォルガ川70種類)

それに関連して、ハバロフスク地方、ハバロフスク市、アムール川流域という三つのレベルで、アムール川の水質を改善するための対策が計画されている。次の世代のために川を保全することが、若い世代の私たちの義務である。

2010大連環境宣言文（案）

「北東アジア地域環境体験プログラム」に参加した我々5カ国の青少年は、環境保全のための意見交換や情報共有といった活動を更に発展させ、私たちの身近な現場に出向き環境体験活動を実際に行うことで、環境保全の重要性を感じ、考えることができた。そして、環境問題を解決するため環境保全活動を実践することが必要であることを理解した。

また、環境保全のための小さな取組みも、個人・地域・国の境界を越えて、相互に連携し、多くの参加主体が協力することで、北東アジア地域の環境を守る大きな流れとなることを認識した。

本日、「北東アジア地域環境体験プログラム」に参加した私たちは、北東アジア地域の健全な環境を保全するため、自ら環境保全活動に積極的に参加するばかりでなく、北東アジア市民の皆さんに参加を呼びかけ、皆さんとともに環境保全活動を実践することを遼寧省大連市において宣言する。

北東アジア市民の皆さん、私たちと一緒に行動しましょう。

2010年8月5日

北東アジア地域環境体験プログラム参加者一同